生涯学習情報誌
Fons
- フォンズ -

No. 96　2024年4月25日発行

常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294(72)8888 / FAX:0294(72)8880
Webサイト:https://hitachiota-fons.jp/

写真:佐々木 泰弘

虫とつき合って思うこと

ひたち太田生物友の会　佐々木 泰弘

私はチョウやトンボなどの昆虫が好きで、小学生の頃から虫とつき合ってきました。フォンズでもいろいろな虫を紹介してきましたが、紹介できた虫は市内に生息する虫のほんの一部に過ぎません。市内にはたくさんの種類がいます。昆虫はとても種類が多いのです。全世界での生物数は約一八〇万種といわれており、そのうち昆虫は約百万種もあります。種類数から見たら地球は昆虫の星といえます。このように昆虫が繁栄した理由の一つに、環境への適応力がすぐれているということがあります。小さな環境の違いの中にも入り込み種を進化させてきました。太田の昆虫探しでも、様々な所を捜しました。森や草地の中、水中、地中、深夜闇の中などで違った昆虫に会うことができました。どうすれば見つけることができるのかを考えることも楽しみの一つになりました。十メートル以上の竿を用意したり、夜に紫外線ライトで集めたり、深い穴掘りをしたり、といろいろやりました。

そのように、五十年近く虫探しをやってくると周りの虫たちが変化していることにも気づきました。虫が変化するということは、環境が変化していることです。その変化が近年激しくなってきている気がしてなりません。虫一種の変化はとても小さな環境変化かもしれませんが、大きな変化の前触れかもしれません。身近な虫の記録が、未来の大きな変化を知ることの助けになるかもしれません。そのためには、今ここに、この虫がいたことを残しておくことが大切です。それをしなければ、変化を追うことはできなくなってしまいます。昔の草原には普通に飛んでいたチョウがいなくなってしまっても、過去の記録がなければ「そんな虫、昔から常陸太田市にはいなかったよ」というようなことになってはならないと思い、他の人の記録も含め大切にしていきたいと思っています。

ひたち太田生物友の会と「ほっとひといき」

フォンズで創刊からずっと続いている「ほっとひといき」というコーナーは、ひたち太田生物友の会のメンバーの方に書いていただいています。常陸太田でみられる身近な植物や昆虫を取り上げ、季節感あふれ、自然の豊かさを感じさせてくれる人気コーナーです。

今回はひたち太田生物友の会を紹介いたします。

［取材］安嶋 隆、塩原 慶子

ひたち太田生物友の会は昭和四十九年創立の歴史ある団体です。フォンズの他にも生涯学習センターの講座における担当講師でもあり、先生方と常陸太田の自然を巡る街歩きを楽しんだ方も多いと思います。

創立から十年ごとに記念誌を作成してきましたが、毎号ごとに厚みを増し、現在は五十周年記念号を目指して編集中です。

昨年のNHK朝のドラマで取り上げられた牧野富太郎氏のエピソードでも知られるようになりましたが、記録は写生が基礎であったため、植物や昆虫を絵で描いた表紙が印象的です。

編集中の創立50周年記念号の表紙。

創立10（右上）、20（左上）、30（右下）、40（左下）周年記念号の表紙。

2023年研修会、自然観察の様子。

1981年頃の会員。歴代の会長さんも当時は若かった！

五十年に及ぶ自然観察の丁寧な記録が残されていることは、自然そのものが宝物であるのと同じように、次世代へ向けての宝物となるのではないでしょうか。

ひたち太田生物友の会の初代会長は、故川上千代松さん。会の発足昭和四十九年から平成六年まで二十年間会長として、会の運営に尽くされました。発足当時の生物学は博物学が中心で、野外での先生の動植物への知識に、会のメンバーもどのようにしてあんなに物知りなのかと驚くばかりだったそうです。川上千代松さんの圧倒的な知識に多くの会員が刺激を受けて活動の原動力となり、現在にいたるそうです。会員の多くは小中学校や高校の教員でもあり、会員名簿を拝見すると、授業でお世話になった先生のお名前が見つけられ、同じような記憶をお持ちの方も多いと思います。

初代会長　故川上 千代松さん

歴代会長（敬称略）

初代	川上 千代松
二代	高野 壮一郎
三代	川上 千尋
四代	大曽根 伯
五代	川上 武夫
六代	桐原 弘
七代	菊池 進一
八代	篠原 倭雄
九代	安嶋 隆
十代	佐々木 泰弘
十一代	安嶋 隆

フォンズ創刊号のほっとひといきは「クサイチゴ」の紹介からはじまりました。バックナンバーはWEBサイトから見ることができます。

【掲載号】	【発行日】	【植物・昆虫・動物名など】
創刊号	2000.6/26	クサイチゴ
2	2000.8/25	ウラベニホテイシメジ
3	2000.10/25	アケボノソウ
4	2000.12/25	ウラジロ、ユズリハ
5	2001.2/26	トウキョウサンショウウオ
6	2001.6/25	コアジサイ
8	2001.10/10	ヤブラン
9	2001.11/26	アワコガネギク、キクタニギク
10	2002.2/25	ホトケノザ
11	2002.6/25	オオムラサキ
12	2002.7/25	ヤブカンゾウ
13	2002.9/25	ヤブミョウガ
14	2002.12/10	イヌタデ
15	2003.3/25	ヤブコウジ
16	2003.8/25	マイコアカネ
17	2003.10/27	ツクツクボウシ
18	2003.12/10	アカスジキンカメムシ
19	2004.5/25	オオゾウムシ
20	2004.7/10	ナナホシテントウ
21	2004.9/25	セミの羽化
22	2004.11/25	オンブバッタ
24	2005.6/25	タビドサナエ
25	2005.7/25	ニホンカナヘビ
26	2005.10/10	トラマルハナバチ
27	2005.12/10	ニホンアマガエル
28	2006.3/10	コツバメ
29	2006.6/25	ヒダリマキマイマイ
30	2006.6/10	カノコガ
32	2006.11/25	ミノムシ
34	2007.4/25	ニホンリス
35	2007.6/10	レンゲソウ
36	2007.8/25	ムササビ
37	2007.10/25	ハラビロカマキリ
38	2008.2/10	湯草のカヤ　市指定天然記念物
39	2008.3/10	オオムラサキ
40	2008.4/10	太田のホタル
42	2008.10/10	タマゴタケ
43	2008.12/10	マイダマとミズキ（ミズノキ）

ほっと ひといき

ひたち太田生物友の会会員 ほっとひといき担当の先生方

創刊号のほっとひといきは安嶋先生担当、クサイチゴの紹介からはじまりました。安嶋先生は昨年の春の朝ドラ「らんまん」で広く知られることになった牧野富太郎氏の教え子の方に学んだ孫弟子。植物に詳しい上に、お話の柔らかさ楽しさも合わせて伝わってくる方です。

安嶋 隆さん

昨年友の会で開催した研修会の際には、牧野富太郎著書目録や登場人物と実在モデルの事まで含め、楽しい研修会だったそうです。

担当分野に限らずとことん物事を楽しむ姿勢が友の会の方は皆さんに共通して感じられます。

古平 均さん

フォンズ四十号では、久米小学校のファーブル先生としてもご紹介。校庭に変わった虫がいると児童たちが校長室に聞きに来るほど、子どもたちにも人気の先生です。植物や昆虫ばかりでなく、記録のための写真機材の扱いも詳しく、記録集の編集等も大変几帳面で、すべて古平先生におまかせで大丈夫とのことでした。研修会の記録写真集では、写っているメンバーの写真の数を揃えるほど気を使った編集をなさるそうです。

フォンズの取材で桐原先生と常陸太田の野山を散策するのは、とても贅沢な時間でした。名前もわからない草のひとつひとつを丁寧に紹介してくれます。フォンズの記事では、植物の紹介の中に、その植物に縁のある和歌や俳句をもれなく紹介してあり、内容の濃さに驚かされます。

桐原 弘さん

仏縁の
ある草やこれ
仏の座
（名和三幹竹 作）

うるはしみ
我が思ふ君は
なでしこが
花になそへて
見れば飽かぬかも
（大伴家持 作）

（フォンズ掲載号より転載）

フォンズ10号
「ホトケノザ」

フォンズ52号
「カワラナデシコ」

佐々木 泰弘さん

ほっとひといき執筆回数最多です。蝶に大変造詣が深く、前述の記念号では常陸太田の蝶類リストを担当し、茨城県のレッドデータブック動物編では蝶類の担当となりました。友の会のメンバーは記録のため、写真撮影にも必然的に詳しくなりますが、佐々木先生は太田一高の写真部の顧問も勤められていました。

蝶を求めて世界各地を旅し貴重な標本も多数保管されているそうです。

74	2015.2/10	マンリョウ
75	2015.7/27	オオキンケイギク
76	2015.9/10	キキョウ
77	2016.1/12	ウラジロ
79	2016.7/11	ヤセウツボ
80	2016.10/11	アメリカオニアザミ
81	2017.1/10	ヤマウルシとツタウルシ
82	2017.4/13	ショウジョウバカマ
83	2017.10/10	アレチウリ
84	2018.4/12	ミミガタテンナンショウ
85	2018.10/10	ヤコウタケ
86	2019.4/11	ウスバアゲハ
87	2019.10/10	アカハネナガウンカ
88	2020.4/27	ツマキチョウ
90	2021.4/12	ヤマトオサムシダマシ
91	2021.9/24	ラミーカミキリ
92	2022.5/25	イヌノフグリとオオイヌノフグリ
93	2022.10/25	常陸太田市のサンショウウオが新種に
95	2023.10/25	カラスウリ

46	2009.7/10	カマキリモドキ
47	2009.9/25	クワゴ
50	2010.4/10	イタチ
52	2010.9/25	カワラナデシコ
53	2010.12/10	ツマグロヒョウモン
54	2011.2/22	ロウバイ
55	2011.4/10	オオハクチョウ
56	2011.7/10	ヤブデマリ
59	2012.1/25	イイギリ
61	2012.7/10	スギタニルリシジミ
62	2012.9/25	アカマダラコガネ
64	2013.2/12	ネキトンボ
66	2013.7/10	ガロアムシ
67	2013.9/25	オゼイトトンボ
68	2013.11/25	マツムシ
69	2014.2/10	フユシャク
71	2014.7/10	ツクバハコネサンショウウオ
72	2014.9/25	ヒガンバナ
73	2014.12/10	キクタニギク

ひたち太田生物友の会の思い出

桐原 弘

発足は昭和四十九年六月で、今年は五十年目を迎える。郷土の自然保護を目的に、自然観察会・調査研究が中心で、年五回実施を地道に続けてきた。

発足のきっかけは昭和四十七年から二年間、県全域の「自然財調査」が実施され、この調査員を中心に会が始まった。会の一番の楽しみは県外一泊研修である。多くの植物に会えること、温泉を楽しみ、そして夜も引き続き研修を行う。

市教育委員会の委託で「常陸太田の自然」を平成八年と十一年の二冊発行している。また、生涯学習センターのロビーの一角に「生物の記録」の展示・解説を平成十六年から二十八年まで五百回以上行い、好評を博した。他に、同センター主催の「親子自然探索サークル」の実行委員は三十年になり、自分も講師として携わっており、友の会会員も活躍している。「雑草という名の植物はない」をモットーに。

ロビー展示「生物の記録」

安嶋 隆

生物の記録は平成十六年六月より、会員の日常的研修と市民とのより一層のふれあいを図ること、季節の身近な動植物の写真や実物の野草や樹木を展示して、地域の生物に関心を持つ市民が増え、自然の保護につながるようにすることを目的として常陸太田市生涯学習センターロビーの一角で開始した。

約二週間ごとに、解説文と動物や植物の実物、標本などの展示替えを行ったが、実物を伴う展示は予想以上に労力のかかるものであった。

展示には、地元の方々にも協力いただき、感謝申し上げます。

ヤブラン。ユリ科の多年生。ヤブに生え、葉の形がランに似ているため。関東以西の樹陰などに生える。8～10月ごろ細長いうす紫色の花序をつける。11月ごろ黒紫色に熟す。テッポーダマ、ネコノメ、ジャノヒゲなどと呼ばれています。

植物観察会のすすめ

安嶋 隆

植物観察では「少しでも多くの植物名を知ること」というイメージがあります。しかし、野外には非常に多くの種類が生育しており、次から次へと、これは○○です。これは○○によく似た○○です、のオンパレードではすぐに飽きられてしまいそうです。そこで観察会では次のようなことを心がけています。

第一には「植物に親しむ」です。気になった植物や疑問に思ったことを聞いたり、お互いに教えあったり、あるいは雑談をしながら植物に親しみましょう。そして全員が参加者の一人であることを意識しましょう。

第二には「五感」を使うことです。

- 目で観て、葉の形態や花の構造を観察してみる。
- 噛んでみて、果実の味や茎の苦みを感じる。
- 手の感触で葉や茎のざらつきや毛の生え方を感じる
- 嗅いでみて、花や葉の臭いの違いを感じる。
- 時には耳を澄まして、草や木のそよぐ音に注意してみる。

第三には「植物を知ることは歴史、民俗などを学ぶことに通じている」との理解です。

植物名の由来や花のつくりを知ると先人たちの生活や人と植物のかかわりが思い浮かびます。先人は食用、薬草、生活用具など、植物を日常生活の中でごく普通に利用していました。野外での観察から先人の生活の知恵を学んでみましょう。

○ひたち太田生物友の会 展示会のお知らせ

ひたち太田生物友の会のメンバーが保有している貴重な標本・写真等を展示します。常陸太田市内で採集した標本などの貴重な資料を間近で観察することができます。昆虫好きなお子さん、植物を詳しく知りたい方、ぜひお出かけください。友の会会員の方に詳しい説明を聞くこともできますよ！

【期間】令和六年七月二十日（土）～七月三十一日（水）まで（月曜休館）

【時間】午前九時～午後五時まで

【場所】生涯学習センター　ギャラリー（入館無料）

○ひたち太田生物友の会会員 安嶋隆さん講演会開催のお知らせ

演題「牧野富太郎博士の偉業を知る」

【期日】令和六年七月二十日（土）

【時間】午後二時～午後三時三十分（開場　午後一時三十分）

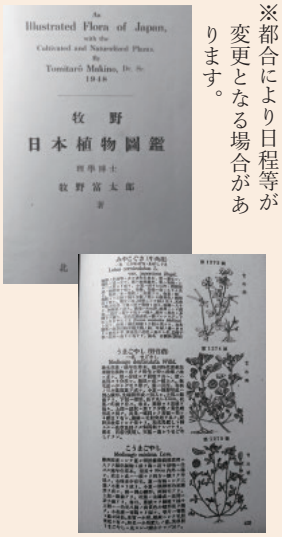
【定員】五十名程度（七月三日より生涯学習センターで整理券を配布します）

【場所】生涯学習センター　講座室

参加費無料

【企画・展示】ひたち太田生物友の会、フォンズ・ネットワーク

※都合により日程等が変更となる場合があります。



牧野富太郎博士著
・牧野日本植物図鑑

常陸太田の地名話 37

能楽（のうらく）『常陸太田市小目町能楽』

川松 博

国道二九三号線小目町交差点を豆飼方面に向かうと、まもなく右手に広々とした水田地帯になる。この一帯を能楽という。能楽とは金砂大祭礼の田楽舞を想像させる珍しい地名である。しかし、ノウラクといって田楽舞とは全く関連性のない地名であるという。地名の由来について、地元の古老の言い伝えとして、二つの説があるという。

一つは、ノウラクは野良仕事のノラの意味で、そのノラを能楽の字で表現したという。この場合、ノウはおそらく野の長音化したもので、それに瑞祥の楽を取り入れ能楽としたことが考えられる。

二つめは、この地域は平坦な土地で、農作業をするのにたいへん便利な場所であるところから、農業が楽であり、それが転化して能楽の文字をあてたという。

二つの説とも野良仕事に関係する地名で、どちらも瑞祥の文字を使用しているという共通点がある。この地域の平坦な土地の特色をとらえた地名で、二説はともに的を得ているような気がする。

平坦な土地が広がる能楽の水田地帯

＜参考文献＞
『地名語源辞典』山中 襄太 著
『茨城県地名大辞典』角川書店
『ふるさと世矢 故きを温ねて』橘松壽 著

◇ 今までご紹介した地名

【掲載号】	【発行日】	【あいうえお順】	【地名】
84	2018.4/12	あ行	磯部（いそべ）
75	2015.7/27		太田（おおた）
46	2009.7/10		落合（おちあい）
59	2012.1/25	か行	堅磐（かきわ）
64	2013.2/12		笠石（かさいし）
73	2014.12/10		金井（かない）
71	2014.7/10		賀美（がみ）
90	2021.4/12		亀作（かめざく）
64	2013.7/10		久米（くめ）
52	2010.9/25		天下野（けがの）
79	2016.7/11		御所車（ごしょぐるま）
56	2011.7/10	さ行	幸久（さきく）
64	2013.7/10		佐竹（さたけ）
70	2014.4/10		佐都（さと）
70	2014.4/10		里野宮（さとのみや）
78	2016.4/13		里美（さとみ）
44	2009.2/10		猿ケ橋（さるがはし）
53	2010.12/10		三才（さんざい）
85	2018.10/10		島（しま）
91	2021.9/24		常福地（じょうふくじ）
50	2010.4/10		瑞龍（ずいりゅう）
77	2016.1/12		水府（すいふ）
62	2012.9/25		世矢（せや）
72	2014.9/25		千寿（せんず）
80	2016.10/11	た行	玉造（たまつくり）
58	2011.12/10		竜黒磯（たつころし）
93	2022.10/25		団子売（だんごうり）
92	2022.5/25		茶屋場（ちゃやば）
74	2015.2/10		百目木（どうめき）
79	2016.7/11		土木内（どぎうち）
87	2019.10/10		徳田（とくだ）
82	2017.4/13	な行	中染（なかぞめ）
82	2017.4/13		西染（にしぞめ）
81	2017.1/10		西宮（にしみや）
67	2013.9/25	は行	機初（はたそめ）
86	2019.4/11		花房（はなぶさ）
82	2017.4/13		東染（ひがしぞめ）
95	2023.10/25		万畑（まんばた）
69	2014.2/10		山田（やまだ）
89	2020.9/25	わ行	和田（わだ）
83	2017.10/10		和見（わみ）

知りたい「地名話」募集します！

次号フォンズでは、「常陸太田の地名話」特集を予定しています。由来を知りたいという地名をぜひお知らせください。ご応募いただいた中から特集にてご紹介いたします。（ご紹介できない地名もございますのであらかじめご了承ください。）

なお、今までご紹介した地名は左記の通りです。いずれもフォンズWEB上にてお読みいただけます。ご参照ください。

【応募要項】

お名前・ご住所・知りたい地名・フォンズの感想をご記入のうえハガキでご応募ください。抽選で10名の方に、「小わく星 ナガクボ」の絵本をプレゼントいたします。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

【応募〆切】 令和6年5月末必着

【応募宛先】 〒313-0061 常陸太田市中城町3280
生涯学習センター フォンズ地名話募集係

とききさききよし 文と絵
長久保赤水顕彰会（編集・発行）

「小わく星 ナガクボ」

フォンズ94号日立電鉄特集でご紹介した「海辺の町へ」の著者のとききさきさんは高萩市在住。高萩の偉人長久保赤水顕彰会でも活動をされており、小さなお子さんでも長久保赤水の偉業を知ることができるよう絵本を発行されました。

思い出の絵本

『ひみつのアッコちゃん（ばんそうのとびだすえほん）』

柴田 美智子（亀作町）

四歳の時に上野動物園近くの本屋さんで叔父に買ってもらった『ひみつのアッコちゃん』の飛び出す絵本。三人兄弟の末っ子の私にとって、初めての新品の絵本で、それも毎週見ていたテレビアニメと同じ絵本です。

一ページ、一ページ丁寧にめくり、ドキドキしながら仕掛けを動かす幼い私。アッコちゃんの周囲で問題が起きると、『テクマクマヤコン・テクマクマヤコン』の呪文の言葉で変身します。変身したアッコちゃんは問題を解決すると『ラミパス・ラミパス・ルルルルルー』と変身を解く呪文を唱え、元の姿に戻ります。呪文を唱えてお姫様になったり、女性警官になったりするアッコちゃん。夢のような絵本を飽きることなくワクワクしながら読んでいました。

フジオプロ/東映動画/辻勝三郎編（著者）
株式会社 万創（出版社）

そんな夢は、東京から戻ってすぐに終わりを迎えました。私の四歳年上の姉に、絵本の仕掛けの一部を破られたのです。天地が張り裂けるほどの大声で泣きじゃくり、糊で丁寧に張り合わせながら何回も呪文を唱えましたが、絵本はもとどおりにはなりませんでした。その時から私は姉が大嫌いになった記憶があります。

この絵本は、四歳の思い出を呪文で包み、成人を過ぎたころに私の部屋から姿を消してしまいました。そんな私の二人の子どもたちにもワクワクする経験をさせたくて、仕掛け絵本やカードをたくさん作り親子で楽しみました。

今は二人の孫の七五三に向け、そして四月に結婚式を迎える娘の晴れの日に向け、コンパクトに向かい『テクマクマヤコン・テクマクマヤコン・二十年前の自分になーれ…！』と渾身の願いを込めて呪文を唱えています。

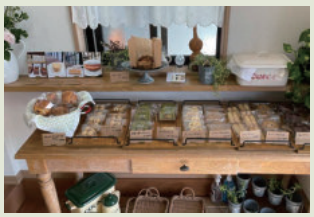
ちょっとひといき

『お菓子工房 merci nico』

［取材］塩原 慶子

白羽町のブドウハウスの奥にある隠れ家のような「お菓子工房merci nico」さんがオープンして一年。もともとお菓子作りが大好きだったオーナー齋藤敏恵さんは、ご実家のブドウ園を手伝いながらお菓子作りの腕を磨いていました。ブドウ園を息子さんが引き継ぐことになり、ブドウ販売の作業所の一部を改装して工房をオープンしました。写真のマロンバターサンドはイチオシです。笠間産の栗で渋皮煮を手づくりし、その渋皮煮をペーストにしてクリームに、さらにカットした栗を混ぜ込んで丁寧に丁寧にいちから作っています。常陸太田にいながらこんなにおいしいバターサンドいただけるなんて！週一の営業日には、その週のお菓子が勢ぞろい、目移りして選ぶのに迷います。

ブドウ栽培から販売までの繁忙期はお菓子工房はお休みになりますが、息子さんが丹精したシャインマスカットを使ったフルーツサンドやレアチーズケーキなどが応相談で注文できます。



住所／常陸太田市白羽町1477
電話／080-5186-2416
営業時間／11:00-16:00（売り切れ次第終了）
営業日／金曜日または土曜日のいずれか1日
（Instagramでご確認ください・不定休あり）

予約はInstagramのDMのみ
※QRコードをスマートフォン等でスキャンするとアクセスすることができます。

100th

フォンズ発行でお世話になった方々にお話をうかがう第二回は、元常陸太田市広報担当の大畠敬一さんと、フォンズネットワークの立ち上げメンバーのおひとりでもあった元商工会局長・関正規さんです。多くの方々に情報を伝えるお仕事に携わってきたお二人にお話をうかがいました。

［取材］塩原 慶子、萩谷 浩司

関 正規さん（写真左）と大畠 敬一さん（写真右）

――フォンズは生涯学習センターの情報紙としてスタートしましたが、読んでくれる市民の皆さんに情報をお伝えするその技術については、全くの素人の一市民の集まりでした。ある年、常陸太田広報課からお声掛けをいただき出会ったのが大畠敬一さんです。

「フォンズのことはとても気にしていて、お伝えする内容が重なってはいけないと気をつけていたこと、もう一つは市の広報ではできないこと、例えば特定のお店の紹介などは、公平性を求められる広報紙ではできないことが多かったので、ある意味自由さをうらやむ（笑）部分もありました」と大畠さん。

「広報紙自体は中学生でも読める文章で、わかりやすい内容にするということを言われていました。実験的な事も行っていて広報専用のキャラクターも導入していましたね。」

――その様々な取り組みの中で「てくてくウォークのすすめ」という読み物が連載されていました。行政情報にとどまらない読み物は楽しかったです。

「私が広報課にいたときにはすごくスタッフに恵まれていて、編集作業はPCに長けたスタッフに任せ、自分はとにかく市内を歩いて地域の情報を拾って来ようと思っていました。地域の方とお話しすると、地域の話題とか知らないことをたくさん教えて頂けて…。それが広報紙に掲載されると、さらに地域の方に喜んでもらえるという、携わっていて本当に楽しい仕事でした。

よく、ここは何もないという方がいますが、何もない地域なんてないんです！歩いてみるといろんな魅力があるんです。」

広報広聴係てくてくウォーク担当者（自画像です）

――一方関さんは、「お手軽ハイキング」シリーズを八号からシリーズ掲載開始。これを手にしてまちを歩いた方、多かったのではないでしょうか？

「まちの魅力って歩いて初めてわかるんですよね。人の生活圏というのは、基本小学校区なんですよ。歩いて暮らしていたエリア、小さな子どもさんからおじいちゃんおばあちゃんまで暮らす、文化や交流までその地区の魅力のすべてを最初に知るのは歩いたところなんです。」

――手描きの地図がついているのも珍しかったですね。

「書くからには、歩いて確認するわけですよね。そうすると、以前あった建物がなくなっていたり、風景が変わっていたりするんですよね。そういうのは切なかったですね。」

フォンズ8号「お手軽ハイキング ～その1～」より町屋町の北沢ニジマスセンターを出発点とする高鈴山山頂までのお手軽なコースのご紹介

――ものごとを人に伝える上で、大事なことって何でしょう？

「正しい内容・情報、お知らせをきちんとする、ということで、記事を見て足を運んでいただければありがたいです」「書いている内容に気持ちがこもっていたら、読む方にも伝わる。かっこよく言うと愛がこもってる、ですかね」お二人とも口々に人と人のつながりの上で、情報が届くということの大切さをお話してくれました。

お知らせ　ご愛読いただいておりますフォンズは、次回97号より回覧版での閲覧となります。各個配布ではありませんのでお間違いのないよう注意ください。個別での閲覧はWEB版または市ホームページをご利用ください。

新太田点描 31

義重と義宣

清和天皇を遠祖とする源氏一族が東北・関東地方等の東国に所領を得て次第に勢力を強めたのは、前九年・後三年の役を平定した源頼義とその子義家（八幡太郎）、そして義家の弟義光（新羅三郎）の頃からと云われている。佐竹氏の祖は義光、子の義業、孫の昌義と云う三通りの説がある。

一般的には昌義が久慈郡太田佐竹郷の天神林村に馬坂城を築いて土着し佐竹氏を称したので昌義を初代とするのが通説である。これは昌義は、地元の佐竹寺を参拝した折に一節二股の竹を見つけ、これを瑞兆の証として源姓を佐竹姓に改めたとのことに由縁する。

その後、佐竹氏は馬坂城から太田城に進出し、ここを本拠地として次第に河北三郡（久慈、多賀、那珂）に支配勢力を広げていった。しかしこの間には、一族間の内紛や反乱など幾多の困難に直面した時期もあったが十七代義昭、十八代義重の頃には常陸国内での有力な戦国大名としての地位を確立している。

そして、十九代義宣が領主となると常陸国南部地方へ進出して水戸城に本拠地を移している。この時、隠居していた義重は太田城に留まっている。

慶長七年（一六〇二）五月、関ヶ原の戦勝祝いに京都滞在中の徳川家康のもとを訪れた佐竹義宣は、突如として出羽国羽後秋田への国替えを命じられ領国の常陸へも立ち戻ることもなく秋田へと赴いている。

一方常陸に残されたままの父義重とその家族・一族及び家臣団にとってはまさに「晴天の霹靂」であったことは想像に難くない。

長年仕えた主君と離れて地元常陸に残り帰農するのか、或いは主君に追随して秋田に赴きそこで仕えるか、何れの身分・立場に置かれた人も、これから先のことを思うと不安と焦燥感に苛まれながらも重大な決断を迫られたことであろう。

その様な中の一人に石川村（現・ひたちなか市）他三カ村を所領としていた大山一族がいる。大山氏は佐竹氏十代義篤の子で当初は那珂西郡の大山村に居住したことから大山氏を称したという。その後、義喬の代に那珂東郡の石河郷に領地替えとなっていた。そこへ突然の国替えの仕業である。

ここで大山氏が下した決断は、一族・兄弟を常陸と秋田とに分けて住まわせて家の存続をはかるというものであった。秋田へ赴いた大山氏は羽後横手に居住して主君佐竹氏に仕えている。

さて今回紹介する史料二点は石川村に残って土着帰農した大山家に伝来するものである。一点は義重の七言二句、もう一点は義宣の和歌である。これは常陸国に残って農民になっても旧領主佐竹氏に対する敬慕の念を持ち続けたからであろう。

戦乱に明け暮れた戦国の世を生きる武将と云えば無骨一点張りのイメージが漂うが、やはり領主、大名として家臣団を統率する立場にある者は茶の湯や詩・歌など一廉の教養は身に着けていたことを彷彿とさせるものである。

約五百年余に亘って太田地方を本拠地していた佐竹氏の遺墨・遺品等が何処か市内の旧家にも残されていないかナァ。

（吉成英文）

螢

螢火乱飛／秋已近　晨星早没／夜□長　義重

（ひたちなか市　大山富彌氏 所蔵）

畜生　義宣

むくひある／罪めぐり来て／くるま牛
世にあふ坂を／ひきるやむらむ

（ひたちなか市　大山富彌氏 所蔵）